

東京同窓会のホームページで見かけた同期生

メッセージ番号 2126・菊池忠夫氏(43期)の記録

先日、藤里中学校の同窓会が当店で行われました。
淡路 清之氏(45期B)
小林 良悦氏(45期D)
がお見えくださいました。
当日(16日)は関東琴丘会も開催されており東京同窓会からは菅原副会長さん、三浦副会長さんが皆さんを代表なさいますご出席されたそうです。いつもいつも役員の皆様にはご苦勞をおかけいたしております。本当にご苦勞様です。琴丘会のお帰りに三浦副会長様がお立ち寄りになり能代高校45期のミニ同期会になりました。

メッセージ番号 2146・河田昌俊氏(45期)の記録

省一さん久しぶり。覚えてますか?河田です。
多分卒業してから一度もお会いしていないような気がしますが、三浦さんの「じまん市」の書き込みを見て、省一さんの顔がすぐに浮かんできました。ちなみに1年生か2年生の時に私と同じクラスだったような……?横浜に住んでいると、残念ながら檜山納豆にお目にかかるチャンスはありません。せいぜい「におわ納豆」が「金の粒」くらいです。

私もこの夏に45期の同期会に初めて参加しました。もちろん場所は「きくち」さんでした。そのうち会える機会があると思いますので、そのときはよろしくね。

(編集子から)東京同窓会のホームページは、ご覧のように同窓生の交流の場になっています。勿論、世代は関係ありません。どうぞ、次のURLをご覧ください
<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/>

メッセージ番号 2256. 平野信任氏(45期)の記録

1時間ほど前に「きくち」にて、つつがなく同期会が終了しました。今回の参加メンバーは、奈良、佐藤、平野、真崎、三浦、鎌田そして高松くんの7名(きくちに駆けつけた順)。特に、初参加の応援団長の奈良君は、「せつかく期待して来たのに、俺は一人で1時間待ちどうしだった」と少々むくれておりましたが、最後は気持ちよく、校歌、応援歌の歌唱指導を行い、ご満悦の様子でした。淡路くんからの手紙も皆で輪読しました。いろいろ大変だったんですね。ちなみに今回の参加メンバーの病歴披露(?)となり、「糖尿病」と「脳梗塞」の大病を患った方もいました。

皆の写真は「きくち」のHPにいづれアップされると思いますので、卒業後28年たった「変わり果てた姿」をご覧いただけます。

以上、取り急ぎご一報まで。



家庭用品の専門商社
株式会社 友和

本社 〒164-8610 東京都中野区中央 5-7-1
電話 03 (3383) 2111 (代表)
FAX 03 (3380) 1181
URL <http://www.mum.co.jp/yuwa>
代表取締役会長 小林 肇
第19期(旧19期)

お客様に喜ばれる仕事をする

全国ネットの流通システム

第27期(新9期)
ダイナミック工業(有)
代表取締役社長 **田村 紀 允**
のりよし
東京八電会監事(八電町出身)
工場: 埼玉県本庄市見福1-15-13
TEL 0495-24-7370
自宅: 埼玉県児玉郡児玉町入浅見929-3
TEL 0495-72-5357

第23期(新5期)
能代高校東京同窓会
三田 登
〒315-0033
茨城県石岡市東光台2-7-27
電話 0299-26-1206

鹿児島便りー50年ぶりの岩崎中学同期会

「どもども」と無沙汰の友ら相寄りて
酒酌み交す「まんづまんづ」と

第26期(新制8期) 杉崎孝雄
(鹿児島県大口市在住)



「杉崎、お前も何か言うことがあるだろう」と担任の〇先生に指名されて、慌てて立ち上がったものの、恩師・同期生に「ありがとう」の一言が言えず、しばし立ち往生のまま、中学の謝恩会は終わった。

昨年(2002)の8月末、友成徳秋君が「新ちゃんが亡くなった。杉崎君には格別な思いもあるだろうから」と電話で知らせてくれた。格別な思い?私にはそれ以上の思いがある。中学時代の「新ちゃん」、そして高校での「のへ」こと七戸新一君は、中学・高校の同期生であると同時に、私の恩人の一人である。彼の訃報に茫然としながら思い出すのは50年前の謝恩会での、あの立ち往生だった。

小学校5年の初めから長欠児童だった私が、高校受験準備のため、青森県の岩崎中学3年A組に編入したのは、昭和26年の9月上旬だった。当時の岩崎中学校は山の中腹にあって、村のメイン道路からは約二百メートルの急坂を登った所だった。冬、先に下校した中学生や小学生が、その坂を何度となくスキーや橇で滑り降りて、高校進学(補習授業)が終わる頃には坂全体が氷事なアイスバーンになっていた。

松葉杖に頼る私にこの坂を降りられるわけがない。先生たちの間では「村の炭焼きか木こりに頼んで、杉崎を橇で降ろしてもらおうか」という相談もあったそうだ。その時「杉崎君はボクが負ぶって降ります」と言ってくれたのが七戸君だったという。同じ教室で机を並べてからまだ4ヵ月にも満たない時だった。その彼が、雪融けまで同期生たちと交代で、私を負ぶって坂を降りてくれたのだ。彼らには些細なことだったのかもしれない。でも私は、彼らの背中の温もりを決して忘れる

ことはない。

「背を丸めわれと肩組み”戦わん哉”と歌ひし友はずでに世になし」。“戦わん哉”は能代高校の応援歌の一節。以来半世紀、いつしか文通も間遠になっていた彼。しかし、昨年9月5日、彼ら物故者たちの慰霊を兼ねた同期会を開くとあっては、鹿児島(大口市)の山間からであろうと、駆けつけなければならない。

9月4日夕方、陸奥岩崎着。昔、映画監督の谷口千吉氏が「五能線の岩崎海岸は絶景」と賞賛した夕景は今でも美しい。『朱々と海焦がす夕陽たゆひて岬の山端輪郭は濃し』。沈みゆく夕陽が、黒ずんでゆく海面に朱の川を注ぐ。同期会は、その岬の山中、鱸作の不老不死温泉で行われる。

新制7期の原田信夫君(旧姓吉田)の挨拶で同期会は始まった。原田君も私を負ぶって坂を降りてくれた一人だ。まず物故者たちへの黙祷1分。そのあとは、お互いに「どもども」と、どちらかともなく近づいて「まんづまんづ」と酒をすすめ合い、飲み、はしゃぎ、大いに語る。能代高卒の川村喜四司・工藤親義君の話では、原田君は高卒後、山中の小学校分校に奉職。通信制大学を卒業し、小学校校長で定年を迎えた。現在は五所川原市の教育長。でも、彼が最初に勤めた学校は今(2003)はないのだそうだ。『爪先に唐辛子入れて通ひたる鄙の分校毀たれしとか』。肴は旨く酒は良し。4時間を越す歓談にも懐旧は尽きない。同期会の仕上げは少し離れた正道尻のスナックでカラオケ大会。それぞれに歌い疲れも見え始め、遠くに雷が聞こえたところでお開きになる。『またひとり先逝きし友を偲ぶ夜は幻聴なるや遠鳴りのする』。

夜半から早暁にかけて激しい稲妻と雷鳴だったが、翌朝はウソのような秋晴れだ。何人もの旧友たちが駅まで見送りに来てくれている。『不老不死をともに願ひて半日の旧友ら手を振るローカル列車』。亡き恩師たち、彼岸の同期生たちの冥福を祈るためにも、ますます健康に留意し、次の同期会で再会することを約して、故郷・陸奥を後にした。

※杉崎氏は、元副会長。会報の編集を長年にわたり担当された。先年、目を患い鹿児島に転居されています。(島記)

あなたの大切な知的財産権

特許発明・実用新案・意匠創作・商標登録

・著作権を守るために、ご相談ください。

弁理士 島 豊 彦 第25期(新7期)



島 特 許 事 務 所

〒110-0016 東京都台東区台東4-31-5 オリオンビル7階

TEL. 03-5816-4441 FAX. 03-5816-4442

e-mail: BRB06442@nifty.ne.jp



第26期(新8期)
能代高校東京同窓会

副会長 島山 信 孝
(八竜町出身)

東京八竜会副会長

〒228-0024
神奈川県座間市入谷4-6-1
東建座間ハイツ1-905
TEL・FAX 046-256-6361